

みちしるべ

第120号

人権・同和問題啓発広報
人権同和政策課
☎ 22-7506
同和教育・啓発推進会議

出雲市では、同和問題をはじめ、様々な人権課題の解決をめざして、教育・啓発に取り組んでいます。今回は、8月に開催しました「同和教育講演会」と「人権・同和教育基礎講座(第1回)」の様子をご紹介します。

第45回 出雲市同和教育講演会

8月26日(日) 出雲市民会館において、猿まわしの芸で知られる村崎太郎さんをお迎えし、「橋はかかる」



差別のない世の中を目指して」と題して講演いただきました。

村崎さんは、自身の部落差別を受けてきた辛い体験や、芸能界入り後、同和地区出身であることを公表することによって、同和問題を積極的に報道することのないテレビ、ラジオなどマスコミからシャットアウトされたことなど、涙を交えて話すその姿に一、〇〇〇人を超える参加者の皆さんは、熱心に聞き入りました。

村崎さんは講演の中で、

「今や日本人全員が被害者です。差別してはいけませんという、そんな上から目線の教育で本当に差別は解消されるのでしょうか。そんなふうに差別問題を他人事のように語る大人に育てられた子どもたちがまた大人になって、今の日本をこんな殺伐とした国にしてしまったのです。」

この問題を私の孫の時代にはもう残したくありません。誰かが真正面から切り込まないと、いつまでたつ

【村崎さんプロフィール】

17歳で初代次郎君とコンビを結成し、日本に途絶えた猿回しを復活。次郎君の「反省」ポーズで全国的な人気者となる。

2007年にテレビプロデューサーの栗原美和子さんと結婚。翌年、栗原さんの私小説「太郎が恋をする頃までには…」で、同和地区出身であることを公表。

ここ数年は次郎君とともに、日本各地のハンセン病療養所、原爆被爆者の皆さんなどを訪ねる出逢いの旅を続けておられます。

でも解決に向かわない。だから私はカミングアウトしました。日本中が「人権問題」というなにか抽象的なことに見て見ぬ振りをしていくのです。

私は同和問題はこう思っています。(被差別)部落は文化です。恥ずべきものでも隠すべきものでもありません。日本には日本人が日本人を差別したという悲しい歴史があります。我々はそれに学ばなければなりません。」と熱く語られました。

【参加者の声】
未だに根深く同和問題があるなと思いました。村崎さんの言われるように、我々の代で差別をなくしていく努力をしないとダメだと思います。

出身によって差別されることは、あつてはならないことだと思えます。今でもそのような差別があることに驚き、怒りを感じました。「この世界には偏見があふれている」という言葉のとおり、偏見や差別は身近なところにも本当にたくさんあると思います。私たち一人ひとりがそのことを「差別だ」と認識し、自分の問題として捉えていかなければならないと改めて感じました。

・人が人を差別する、なんと悲しくつらい出来事でしょうか、まず自分の身のまわりから差別に立ち向かっていこうと思えました。

人権・同和教育基礎講座



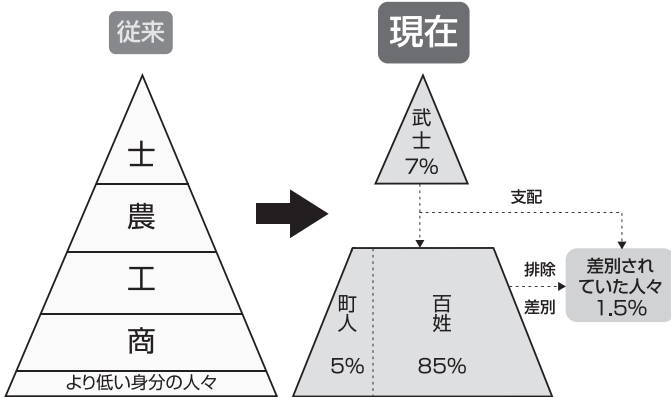
さまざまな人権問題をテーマに講師を招き、年4回シリーズで講座を開催しています。今年度は一〇〇人を超える人が受講しています。

第1回目は、8月4日(土)市役所くにびき大ホールで、島根県人権啓発推進センター啓発指導講師の藤原博詩

さんを講師にお迎えし、「子どもたちが学んでいる同和問題」と題して講演いただきました。

子どもたちが学校で学んでいる同和問題の内容や、また、見直しされた同和問題の歴史などについてわかりやすく説明していただきました。

身分制度のイメージ図



島根県における同和問題の歴史をもとに作成

※百姓は農民だけではありません。
「百姓」…村に住み、農業をはじめ、様々な仕事に携わった人々のことです。
【例：農民、漁民、山仕事、猟師、他】

よって身分が決まり、身分に応じた役割が課せられていました。職業に基づく身分の上下関係はありません。百姓や町人とは別に厳しく差別されていた人々もいましたが、「百姓」の下に置かれたのではなく、別

小・中学校社会科教科書の同和問題に関する記述が見直されてきています。中学校では昭和47年から、小学校では昭和49年から同和問題に関する記述が教科書に掲載されるようになり、同和問題学習が始まりました。その後、日本史の研究が進み、その成果を受けて教科書の記述内容などが大

きく見直されています。多くの人は、学校で「土農工商」という身分制度を習いましたが、現在は、江戸時代に「土農工商」という身分のくくりや序列がなかったとされています。学校では、「農工商」については、「百姓」「町人」という名称で学習しています。それぞれ、住んでいる場所によって身分が

「土農工商」という身分上の序列がなかったことを知っていますか。

の世間に属する身分とされてきました。

学校では、小学校6年生から同和問題学習が始まります。大切な子どもたちを差別されることはもとより、差別することからも守るためには、まず大人が同和問題に向き合うことが大切です。地域で行われる研修会などに積極的に参加し、正しい知識を身につけ、例えば、家族の話し合いの中からも差別解消に向けて取り組んでいきましょう。

お知らせ

人権・同和教育基礎講座(第3回)の開催時間に変更になりました。

開催日時：12月8日(土)13時～15時
場所：市役所1階くにびき大ホール
演題：「母娘で問った部落差別」
講師：部落解放同盟鳥取県連合会
米子市協議会女性部
部長 坂田 かおりさん

おたずね／人権同和政策課
☎ 7506